

ひだまり ただいま

2018Vol. 9

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

平成30年3月1日 第9号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

未来の地域リーダーを育てる - 「あきた未来カフェ」という挑戦-	1
後援会活動報告（後援会長）、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室について	5
地域連携事業 卒論テーマ公募について／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

未来の地域リーダーを育てる — 「あきた未来カフェ」という挑戦 —

「地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を目的として平成26年度に誕生した地域文化学科において、教育の中核と担ってきたのが「実際の地域現場を知る」と「地域の人々と協働する」をコンセプトとしたコアカリキュラムでした。

これをさらにバージョンアップするために本年度から始まったのが、「あきた未来カフェ」事業です。現在活躍している地域リーダーの方々や学生が、親しく膝を交えて語り合う「場」を作ることで、未来の地域リーダー育成の種を蒔く、それがこの事業の目的です。ここで言う地域リーダーとは、「地域社会の未来を切り開くために一步を踏み出す人」のことです。もちろん、学生たちが卒業後すぐに地域でリーダーシップを発揮できるはずはありません。でもきっと10年後、20年後には……、そうした願いを込めた未来への挑戦です。

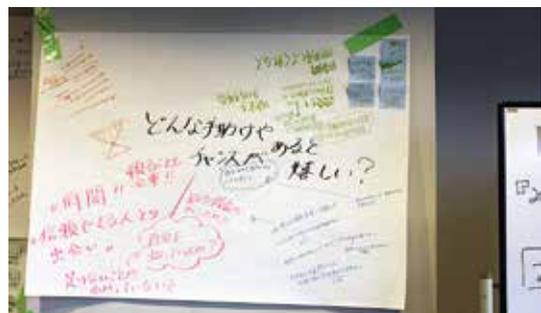
事業は、独自の手法で村の再生を実現した長野県下条村の前村長、伊藤喜平氏をお迎えしてのシンポジウム、「『秋田における地域人材の育成と地方創生』を伝説の村長と考える」（2017年11月5日開催）をイベントとしてスタートしました。

本格的なカフェ形式での開催は、「みんな、どうやって『やりたいこと』を見つけるんですか？」を

テーマとした合宿（11月25・26日、秋田県青少年交流センター「ユースパル」）からとなりました。現在、地域でさまざまな活動に挑戦している若手地域リーダーの方々15人（ボランティア参加）と学生15人が、お互いの人生体験を振り返りながら、踏み出すべき「最初の一步」をどのように見つけてきたのか、どのように見つけたら良いのかを、まさに膝を交えながら熱く語り合う場となり、学生にはとても大きな刺激となったようです。（なお、これに続いて2月には、2つのカフェ「自分なりの“小さな一步”を考える」、「あきた国際文化カフェ」）を予定しております。）

まだ始まったばかりの事業ですが、学生達の成長を暖かく見守り、ご支援いただければ幸いです。

地域文化学科主任 志立 正知



選ばれる大学を 目指して

教育文化学部後援会 会長 戸巻 孝一

秋田市内は日差しも暖かくなり、すぐそこに待つ春を感じられるようになりました。

後援会会員、教職員の皆様におかれましては、日ごろから後援会活動にご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。卒業を控えている4年生の皆さんは大きな夢と希望を抱きながら残り少ない学生生活を過ごしていることと思います。

さて、昨年本学は「価値ある大学2018年度版 就職力ランキング 企業に選ばれる大学」という情報誌でトップクラスの評価を受けました。学生の熱意がある、チャレンジ精神がある、コミュニケーション能力が高い、柔軟性、適応力が高いなど、社会人に必要不可欠な要件が企業から高い評価を受けました。これも教職員や関係者の献身的で地道な努力の成果であり大変喜ばしいことです。

後援会では学生の就職活動を支援する取組みとして「就職情報室」を開設しております。就職情報室は本学部独自のものです、2名の職員が常駐し豊富な知識と経験、就



平成29年度の理事会・総代会の様子

職に関するノウハウと充実した過去問題集を備え学生からの質問や相談にアドバイスし好評を得ております。利用者も5,500名(平成28年度)を超えたと聞いております。

一方で後援会活動をご父兄の皆さまに報告する機会として、7月2日に理事会、総代会を開催、12月初旬までには各地区会を開催しました。

日本経済は少子高齢化による深刻な労働力不足、働き方改革の提言、急速に普及しているAI(人工知能)など変化しています。本会は変化し多様化する社会の中で、企業や社会から選ばれ続ける本学を支援してまいります。今後とも教育文化学部後援会へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成29年12月2日(土)に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

教員を目指すみなさんへ

教育文化学部 学校教育課程
教育実践コース 山崎 朱梨



私は、秋田県と千葉県で教員採用試験に合格し4月から秋田県の小学校教員として働くことが決まりました。

小学校教員を目指そうと決めたのは3年生の後期でした。もともとは中学・高校の音楽の教員になりたかったのですが、2・3年の附属小学校や公立小学校での実習を通して小学生に学ぶことの楽しさを教えることに魅力を感じ、進路を変えることを決めました。

受験する校種も決まり、教員採用試験に向けて勉強をしようと決意したものの、最初はなかなか集中できませんでした。私は本当に勉強が苦手なので取り組むまでに時間がかかってしまいました。結果、間に合っていない部分があるまま本番に向かってしまったので、これから教員採用試験を受ける人はなるべく早く勉強を始めた方が良いでしょう。

教員採用試験を受ける上でお世話になったのは就職情報室です。4月からはほぼ毎日通いました。教育の情報誌や過去問などを活用できましたし、願書の書き方なども丁寧に教えていただきました。スタージュや自主ゼミでは主に面接練習や模擬授業を見てもらいましたが、改善策などを的確にご指導して下さった先生方

には本当に感謝しています。

また、家族や友人に支えられたこともたくさんありました。特に同じく教員を目指す友人たちとは協力しながら模擬授業や面接をしてお互いに改善策を伝えあったり、疲れた時はみんなで息抜きをすることで最後まで集中して教員採用試験に取り組むことができました。

私は4月から教員として働くこととなりますが、子どもたちにはなぜ学ぶのか、何のために今勉強しなくてはいけないのかということをも自分自身の経験を交えながら伝えていき、子どもたちが自身の夢に向かって努力すること、勉強することの大切さを実感できるような授業を展開していく教員を目指したいと思っています。また、ここまでこられたのは支えてくれた先生方、家族、先輩、友人のおかげだということを忘れず、常に感謝の気持ちを持ちながら日々を過ごしていきたいと思っています。

公務員試験での経験

教育文化学部 地域文化学科
地域社会コース 矢澤 慎吾



私はこの度、秋田市役所に内定をいただきました。市役所職員は大学へ入学する前からの目標であり、大学では公務員に必要なとされる分野の講義を率先して受講してきました。しかし実際公務員試験に向けての学習は困難なことがいくつもあり、努力を必

要とされる時期だったように思います。

最も大変だったことは自主学習です。公務員試験に向けて勉強し始めたのは5月で、大学生協様の公務員講座を機に勉強し始めました。実際本格的に自主学習を始めたのは所属していたサークル活動やバイトを終えた10月頃であり、周りに置いて行かれないよう必死でした。学校の講義はほとんどなかったものの学べき量が膨大であったため、朝の10時ころ学校に来て、夜の10時、図書館が閉まるまで勉強をしていました。当時は勉強が嫌になる気持ちもありましたが、時間がないことへの焦燥感の方が強く、周りからの遊びの誘いなどもほとんど断って追い詰めた環境を作っていました。今思えばよく頑張れたと思っています。

また金銭面でも非常に大変な思いをしました。私は講座を受けていたため特にお金がかかっていたように思いますが、模試や試験のたびに、模試代や宿泊費が予想以上にかかったため財布と相談しながらできるだけ受けるようにしてきました。これから公務員講座に臨む方にはできるだけ模試を受けた方が学力の向上に繋がりますが、金銭面で悩んでいる場合は計画的に模試を受け、取捨選択をすることをオススメします。

以上では公務員試験で特に大変だったことを話しましたが、辛いことだけではありません。成績が上がったとき、試験に合格したときは本当に嬉しかったです。そして当時は公務員になりたいという強い思いがあったため、日々の勉強も目標に近づいていると思うと非常に充実した日々でした。これから公務員試験に臨む方もめげずに強い意思を持って頑張ってください。

就職活動を振り返って

教育文化学部 地域文化学科
地域社会コース 嶋田 美里



私が就職活動を始めるにあたって最初に行ったのは自己分析です。これまでの自分を振り返り、軸を見つけました。部活でキャプテンを務めたときに、チームの課題とそれに対する解決策をあれこれ考えることが楽しいしやりがいがあると感じました。頑張ろうとしている人や団体がより良いパフォーマンスを発揮するために働きかける仕事に興味をもちました。自分の軸にぴったりの企業が見つかるので自己分析と業界研究に時間をかけることをお勧めします。

3月の情報解禁以降、重要視されるのは「志望動機」と「自己PR」です。この2つをきちんと話すことができないとどこも通ることはできません。

志望動機は企業から聞いた話やパンフレットに記載されていることの受け売りでは他の就活生との差別化は図れません。私の場合は情報室で内定先の方を紹介していただき、事業内容を細かく教えていただき、働いている姿をイメージしてもらえそうな話をしました。

自己PRでは素晴らしい結果を出したエピソードは必要ありません。学生生活の中で一生懸命に取り組んだことが必ずあるはず。その取り組みの中で学んだこと、工夫したことについて、「なぜその行動を選んだ

のか」ということを掘り下げてみると自分の強みが見えてくると思います。その強みを今後どのように生かしていくのか伝えることが重要です。

就職活動はひとりでできるものではありませんでした。春先は大切な試合も控えていたので慌ただしい日々を過ごすことになりましたが、周りの方々の手厚いサポートのおかげで苦しい感じたことは1度もなく、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。特に情報室では様々なことを教えていただいたのでこれから就職活動を始める方も積極的に通ってください。

春からは情報通信業というまったく未知の世界に踏み込むこととなります。多くのことを学び、立派な社会人としてお世話になった方々やこの大学に何か貢献できるように努力します。

大学院進学へ向けて

教育文化学部 学校教育課程
教育実践コース 渡辺 雄介



私は来年度より秋田大学大学院教育学研究科への進学を予定しておりますので、大学院進学に関わる活動体験について紹介したいと思います。

私が大学院に進学するという意思決定をしたのは、8月下旬、秋田県の教員採用試験に不合格になったことがきっかけです。本来、大学を卒業後、地元秋田で教壇に立つことを希望していたのですが、試験に合格することができず大きなショックを受けました。その際、なぜそのような結果になってしまったのか、自分を見つめ直してみると、私には教員になるために伸ばさなければならない要素が数多く存在していることに気がきました。特に授業づくりに関して、子どもの思考をいかにして活発化させ主体性を引き出すかといった点において課題が感じられました。そこで、大学院に進み、教員としての核となる授業力を高めることを目指そうと決意しました。

大学院入試への取り組みとして、過去問を利用した問題の演習と大学院で研究したい分野について理解を深めることに努めました。過去問は過去2年分の試験問題を秋田大学入試課から頂けるので、それに対して解答を作成し大学院在学中の先輩から添削を受けるなどしていました。また、受験の申し込みにあたって、大学院での研究テーマ等希望調査書というものを提出する必要があり、試験の面接においてもその内容について追及されるため、自分の専門である体育の授業、その中でも特に情報通信技術を利用した授業についての文献を読みました。

そうした試験対策が功を奏し、大学院入試に無事合格することができましたが、何より大きな支えとなったのは、周りからの励ましや協力であったと感じています。教員採用試験に不合格となった際にそこから立ち直らせてくれたのも、大学院入試を受験する際に勇気を与えてくれたのも周りの方々です。今後は支えてくれた方への感謝の気持ちを忘れずに、大学院で教員としての力量を高めていく所存です。

教育文化学部の就職支援活動について

キャリア委員長 林 良雄

本学部の就職支援は、教員、公務員、企業と分けて活動しております。それぞれについてご説明いたします。

教員採用試験については、通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが、それ以上に、教師としてやっていけるかが面接や模擬授業等で確かめられます。本学部ではこれに対応するために、授業外でスタージュや教職自主ゼミという、学生が自主的に参加する講座を週二回行っております。

平成29年度の教員採用試験の結果ですが、昨年度とほぼ同等の成果が上がっています。秋田県の採用試験についても同じですが、採用数についてはさほど多くはありませんので、他県との併願も勧めております。併願する他県で一番多いのが千葉県です。その理由は、多くの先輩がいることと千葉チャレンジという、推薦枠ながら千葉で合格しても地元の他県で合格すれば、地元を優先させてもよいという制度があることなど、恵まれた環境・制度によるものです。

先ごろ文科省が発表した平成29年3月卒業生の教員就職率（正規と非常勤を合わせたもの）では本学部過去最高の75.0%となっており、日ごろの支援活動が実っていることが実感できます。

公務員についてもほぼ昨年度並みとなっております。このところ、公務員志望者がかなり増加しており、支援を進めております。公務員志望の学生の多くは公務員に関する知識がない上に、公務員になり何をしたいのかもわからないのが実情です。まずはその部分について、2年生でしっかり考えさせることが必要であるという観点、および3年生までに何を勉強すべきか、ということから指導を続ける方針です。

企業への就職についてです。就職指導については本部の学生支援・就職課の就職推進担当が中心となります。本学部では、それに加えて学部学生を対象とした少人数制で、エントリーシートの書き方指導などより実践的な支援や平時の就職活動における相談など支援を行っております。

企業への就職状況は、就職環境の改善を受けて良好で平成29年度についても高い就職率となるものと思われま。採用活動のスケジュールについては変更なく、3月広報解禁、6月採用活動解禁となります。しかし、3月までには自己分析、企業・業界研究が必要となっています。我々としては3年生になった段階から就職セミナーへの参加呼びかけなど早期の活動を促していく方針です。

最後に、気がかりな点について述べておきます。最近の学生は、何か問題があっても自分一人で、あるいはネットの情報で解決をしようとする傾向があるようです。そして、誰にも相談せずに、結局訳が分からなくなり、そこで止まってしまうのです。そこで活用していただきたいのが就職情報室です。

就職情報室は後援会のご支援で運営している本学部独自の相談室です。各就職について学生ごとにきめ細かい対応をしております。少し勇気を出して、就職情報室に入っただけであれば、職員が丁寧に対応して、様々な情報や知恵を出してくれるので、きっと問題解決の糸口がつかめると思います。勿論、順調に進んでいる方でも、職員とお話することで、気分転換もできます。是非とも、お子様に就職情報室の活用を勧めてください。そうすれば、必ず、より良い就職へつながると思います。

2月末データ

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	108	13	90	41	49	65	22	43	72.2	53.7	87.8	5
	地域文化学科	92	5	85	35	50	79	35	44	92.9	100.0	88.0	2
	小計	200	18	175	76	99	144	57	87	82.3	75.0	87.9	7
教育学研究科	30	0	30	17	13	21	11	10	70.0	64.7	76.9	0	
合計	230	18	205	93	112	165	68	97	80.5	73.1	86.6	14	

就職内定状況

就職情報室から

就職情報室について

後援会のご支援を受けて運営している就職情報室について、ご紹介いたします。

就職情報室では就職担当職員2名が、教員を目指す学生に対する支援をはじめ、様々な就職に関する情報を提供すると同時に、学生からの就職に関する質問・相談に対応しています。また、エントリーシートへの添削、面接指導への対応も随時行っています。更に部屋には次のような資料等も用意しています。

- ・教職志望者向け：各自治体の受験案内・過去問、問題集や参考書、日本教育新聞等
- ・企業志望者向け：県内外からの求人情報、就職対策に関する書籍、日本経済新聞等
- ・公務員志望者向け：国家・地方公務員等の受験案内、試験対策の問題集・参考書等

利用頻度が高いのは3・4年生ですが、できれば1・2年生にも利用していただきたいと思います。何故かという、就職活動に必要な力や意識を身につけるのは3年生になってからでは遅いからです。しっかりと自分の進路を考えて、そのために必要な力を身につけていかなければ、納得のいく就職にはつながりません。これはすべての就職先について共通です。

実際、就職活動を始めてから、自分のしたいことがよくわからない、自己PRのエピソードがない、面接がうまくいかないという学生の相談を多数受けます。

就職情報室では先輩が必死に勉強していたり、業界・企業研究の為に情報収集をしていたり、添削指導や面接練習をしている様子を見ることができます。また、就職活動が終わった先輩に採用試験や活動の内容を聞くこともできます。時には近況報告にいらっしゃった卒業生が相談にのってくださることもあります。



このように就職活動を身近に感じることで、就職への意識付けや必要な能力についての理解ができると思います。

1・2年生で就職情報室に入るのは勇気のいることですが、一步踏み出してみるよう、お子様の背中を押してください。

就職情報室は誰でも自由に利用できる部屋です。大学生活がより有意義なものになるよう、私たち職員も学生一人一人に寄り添って支援しますので、どうぞお気軽にいらしてください。



誇りある伝統を受け継いで

旭水会会長 千葉 昭

「首位・秋田大 積極性を評価」の見出しが目に飛び込んできました。

昨年6月7日(水)の日本経済新聞の記事でした。

上場企業と有力非上場企業の人事担当者が「採用を増やしたい」大学のトップが秋田大学だったのです。評価基準の4側面「行動力」「対人力」「知力・学力」「独創力」の各順位で秋田大学は「行動力」と「対人力」でそれぞれ1位でした。

大学では「課題解決型学習」を取り入れ、学生が能動的に参加する教育を積極的に進め、座学と実習を一体化して学ぶ「学生自主プロジェクト」に力を入れており「学生が自ら考えて行動する力を身につけている」と述べていました。

学生たちも最近の授業は、AL(アクティブラーニング)の主体的で能動的なディスカッションを取り入れた探究型の授業が多くなり、講義型が少なくなってきたと話していました。

全国学力テスト10年連続トップクラスの秋田を支えている原動力は、秋大教育文化学部出身の教職員が担っているのはご存じの通りです。全国トップレベルの秋田の学校現場で実践知を学ぶことができることは、将来の夢の実現につながります。

また、最近には特に、県庁・市役所・大学職員等の公務員や銀行等の金融機関、一般企業で活躍されている会員も多くなりました。

「旭水会」は、在学生や現職の皆さんの応援団でもあります。学生の体育・文化活動への助成や同期会開催の助成・協賛も行っています。

平成30年度は、旭水会創立130周年の記念すべき節目の年を迎えます。皆さんと共に誇りある輝かしい伝統を受け継いでいきたいと考えています。

卒業研究と授業で地域の課題を考える

■■■■■■■■■■ 大西 洋一

「平成29年度秋田大学教育文化学部地域連携推進事業 卒業論文テーマの公募 成果報告会」が、平成30年2月19日（月）に秋田大学教育文化学部3-150教室で開催されました。この事業は、自治体等から提案された研究課題に本学部の学生が卒業研究等において取り組み、その研究成果を地域に還元するというものです。本事業に今年度は例年より多く7件の応募があり、それらに関する研究成果7件の報告が行なわれました（なお、前日に秋田大学地方創生センターで開催された「あきた国際文化カフェ」においても2件の報告がありました）。学生たちは、いま秋田の様々な地域が抱えている課題を自分の問題として捉え、自治体や地域の諸団体との連携の中で研究調査活動を進めていました。学生が地域社会とのつながりを確認しながら学びを深めていくよいきっかけとなる本事業を、今後も発展的に継続していきたいと思えます。以下では、学生による多様な地域課題への取り組みをご覧いただくため研究題目等をご紹介します（「研究題目」（連携自治体等）の順に列挙）。

【卒業研究による取り組み】●「男鹿・横手地区等の主要観光地における観光動向の実証的研究－観光客へのアンケート調査とその分析を基にして－」（秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課戦略企画班）●「自治体のインターネットを利用した情報発信の有効性について」（能代市企画部地域情報課）●「地域の子育て支援施設としての「多機能型児童センター」の在り方」（横手市健康福祉部子育て支援課子ども育成係）●「子どもの貧困対策と居場所づくり」（秋田市子ども未来部子ども総務課）●「子どもの貧困対策推進のための子どもの居場所づくりについて」（秋田市子ども未来部子ども総務課）

【授業による取り組み】●「減少する消防団員の確保対策」（秋田市消防本部）●「川面漆器の文化、歴史と価値観の変化に伴う新しい活用方法の提案」（湯沢市産業振興部まるごと売る課産業振興班）●「秋田の地方創生と官民連携」（秋田県企画振興部国際課）●「地域の国際化と活性化を考える」（秋田県企画振興部国際課）



学部長あいさつ

人には応援団が必要

教育文化学部長 武田 篤

スポーツには疎い私ですが、時々地元のテレビを見てみるとバスケットボールチーム「秋田ノーザンハピネッツ」のブースターの熱気あふれる応援、そしてJ3で昨年優勝を果たしたサッカーチーム「ブラウブリッツ秋田」の熱狂的なサポーターの姿に圧倒されます。

人は誰でも初めてのことや困難なことに会うと緊張し、迷いや不安を感じます。そんな時、そっと背中を押し、応援してくれる人がいれば、どんなに心強いことか。大学で学びもうすぐ社会に羽ばたこうとしている学生にとっても同じです。「自分を応援してくれる人がいる」「自分に期待してくれる人がいる」そう感じられることが、学生たちに大きな力と安心を与えてくれます。学生たちは、日々大学での講義や実習等に励み、努力しています。でも努力を強いるだけでは、本人が内に秘めている可能性や本当の力を引き出すことはできません。先ほどのバスケットボールやサッカー選手が持っている力を最大限に引き出してきているのは、彼らを心から応援してくれているブースターやサポーターの存在があるからです。学生にも応援団が必要です。

大学と後援会は、常に学生の一番の応援団です。充実した学生生活を送り、自信を持って社会への一歩を踏み出せるよう、これからも共にエールを送り続けましょう。今後とも大学および後援会へのご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

大学・学部関係行事予定（平成30年3月～）

3月 22日	秋田大学卒業式
4月 1日	前期開始
4月 3日	春季休業終了
4月 4日	在学生ガイダンス
4月 5日	入学式
4月 6日	新入生ガイダンス
4月 9日	前期授業開始
6月 1日	創立記念日
8月 10日	夏季休業開始(9月30日(日)まで)
9月 30日	前期終了
10月 1日	後期開始
12月 26日	冬季休業開始(1月6日(日)まで)
2月 16日	春季休業開始(4月2日(火)まで)
3月 21日	卒業式
3月 31日	後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

ひだまり

Vol.9

平成30年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>